参考資料: 善養寺委員発表関連

「都市緑地を活用した地域の熱環境改善構想の検討調査報告書(概要版)」

(環境省水·大気環境局大気生活環境室)

# 都市緑地を活用した地域の熱環境改善構想の検討 調査報告書(概要版)

環境省水·大気環境局大気生活環境室

#### 1. 熱環境改善構想の考え方

### 【熱環境改善とは】

これまでの都市においては、緑地や水面が減少し、建物や道路などの人工構造物が増加した結果、日中にそれらの人工物の表面が高温化するとともにその熱を夜まで蓄え、都市の気温を上昇させてきた。また、都市で生活する人々は室内に快適空間を求め、エアコンを使用して人工的な排熱を大量に都市に捨て、これが都市の気温をさらに引き上げるという悪循環をもたらした。

地表面の人工化は、都市における気温の上昇によって人々が暑いと感じる以上に不快感をもたらしている。人間が暑さを感じるのは、気温以外にも湿度や気流、周辺の建物や道路からの熱放射などが重要な要素となる。例えば、同じ日陰でもテントの下と樹木の陰では、同様の気温ながら平均放射温度(MRT)は

約 9 も異なり、木陰を涼しいと感じる理由が理解できる(図1)。

本構想では、この人が感じる熱、 すなわち熱環境を改善する手法を検 討し、快適な都市生活に資するとと もに、新しい都市の価値を提案する ことを目的としている。その際、熱 環境改善の出発点として考えたのが 都市内の大規模緑地である。

## 【熱環境改善の考え方】

都市内の大規模な緑地は、周辺街 区にくらべ気温が低いことが知られ ている。そして緑地の冷涼な空気は、 昼は風により、夜はにじみ出し現象 などにより周辺市街地に運ばれ、周 辺市街地の熱環境を改善させるもの と期待される。

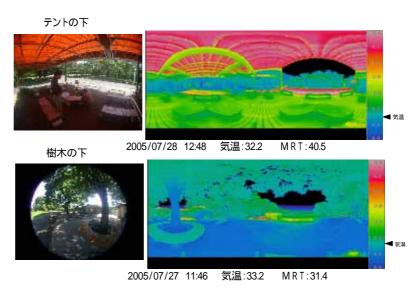


図1 テントと樹木の下の放射温度の違い

しかし、緑地に冷涼な空気が存在していても、現実の都市では、緑地周辺に高い建物が立ち並び、近傍の道路も暑熱化するなど、緑地からの冷涼な風を享受できる範囲は限られている。建物自体が暖まらないように工夫し、また風向きを考慮し、冷涼な風の通り道を確保することで、冷涼な風の到達範囲が広がり、人が感じる風・熱放射も改善することができると考えられる(図2)。

このように緑や風、水などの自然が持つ冷熱ポテンシャルを強化し、これを有効に活用することにより 周辺地域の熱環境の改善ができれば、これらの自然資源は都市の生活環境を改善するインフラとして重要 な役割を持つことになる。

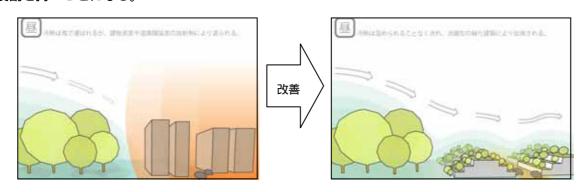


図2 熱環境改善のイメージ(左:現状、右:改善後)

## 【熱環境という新しい都市の質】

先進国の中には、高層建物を壊して低層化するなど、あえて減築して周辺環境の質を高めるという動き もある。量から質への価値の変化において、市街地の熱環境も都市の質であるということをこの構想では 提案している。さらに、都市において緑や風、水といった自然環境と共生するという付加価値をもたらす とともに、このような変化はエアコンに頼りがちなエネルギー多消費型のライフスタイルからの脱却を促 すものと考える。

また、この構想では都市の大規模緑地として新宿御苑をモデルに検討しているが、この考え方を現実のものとしていくには、関係者間で熱環境改善の価値を共有し、未来のあるべき姿を想定しながらまちづくりを進めていくことが重要である。そのための普及啓発手法についても検討を行い、市民参加型によるワークショップの一例を紹介している。

## 2.新宿御苑及び周辺の熱環境特性

国民公園新宿御苑は、東京の都心部、新宿駅の数百 m南東に位置しており、都心の大規模緑地(面積 58.3ha)として、散策路や良好な景観の形成など多様 な機能を提供している。また、100 周年を迎えるとい う歴史のある庭園でもある。

## 【新宿御苑のクールアイランド効果】

新宿御苑における冷気の生成メカニズムや流出した 冷気が作り出す周辺市街地の気温の面的分布・鉛直分 布を把握するため、夏季を対象に御苑内および周辺市 街地の気温や風の状況を測定した。

昼間は、南からの風が卓越し、御苑北側に冷気が流

れ出している状況が見られた(図 4)。御苑内は 30 を下回っているのに対し、その 100m 北側の市街地では 31 を上回っており、その差は 1 以上となっていた。この時期、市街地から御苑に向かって歩くと涼しさを感じるが、この感覚が数字として表れているものと考えられる。

また、夜から朝方にかけて御 苑の上空 30m程度まで冷気溜 まりが存在していることが分 かった(図5)。この冷気溜まり



図3 新宿御苑の全景

31.4 31.2 31 30.6 30.6 30.4 30.2 30 29.8 29.4

図4 御苑北側市街地の平均気温分布(7/27~8/29の日中)

は、市街地の小規模なオープンスペースではほとんど見られず、御苑のような大規模緑地ならではの機能と考えられる。

その冷気溜まりは市街地に流出しており、概ね水平距離で 100mほどまで確認され、流出の厚さは高さ10m程度となっていた(図 6 )。